

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あさひ富田A・B)

事業所番号	0270102346		
法人名	(有)介護センター太陽		
事業所名	グループホームあさひ富田		
所在地	青森市富田3丁目16番50号		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・温泉つきのグループホームということで、利用者様より好評を得ています。  
 ・利用者様の健康維持・向上やアットホームな環境を作り上げるため、私達は『ご本人の趣味・趣向を尊重し、清潔な環境の中、安全・安心でハリのある生活を提供します』の理念のもと、日常生活の中で、利用者様、職員皆が家族という気持ちで触れ合い、信頼関係を築いています。  
 ・住み慣れた環境のもとで、御家族様や地域の方々との触れ合いを大切にしています。  
 ・他事業者との交流の場を通じて、お互いに意見交換をしながら、サービスの質の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅街の中心にあり、地域住民が利用する温泉やデイサービス施設と共に立地している。近隣にはスーパーやペットショップ、花屋等の店の他、公園や病院等もあり、利便性に優れている。  
 また、町内会長や民生委員、地域住民とは災害時の訓練や地域行事等において連携を取り合い、利用者が安心して生活出来るような協力関係を構築している。職員は、利用者の思いに沿って、充実したハリのある生活が送れるよう支援しており、サービスの質の向上に日々努めている。

基本情報リンク先

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年12月12日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 『当事業所では、ご本人様の趣味、趣向を尊重し、地域環境の中、安全、安心してハリのある生活を提供しています。』の理念を掲げ、地域の中でその人らしく生活できるよう支援している。	『当事業所では、ご本人様の趣味、趣向を尊重し、地域環境の中、安全、安心してハリのある生活を提供しています。』の理念を掲げ、地域の中でその人らしく生活できるよう支援している。	代表者は、地域住民の高齢化や一人暮らし高齢者の増加に伴い「利便性の優れた環境のもと、高齢者が安心して充実した生活を送ることができるように応援したい」との思いでホームを設立している。その思いを反映させたホーム独自の理念を掲げ、ホーム内にも掲示し、管理者・職員は朝夕の申し送りや会議の際に理念を唱和しており、共有化を図り、日々のケアの実践に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的には交流していないが、定例行事(近隣小学校の運動会)には参加し、地域の方々と交流を深めている。また、運営推進会議を通じて、民生委員より事前に地域行事の話があり、今秋、地域の防災訓練等、新しい行事にも参加する予定である。	日頃から近隣住民や町内会長、民生委員等との交流があり、盆踊りやラジオ体操、敬老会、近隣小学校の運動会、防災訓練等へ積極的に参加している。また、地域の商店での買い物を通じて馴染みの関係になり、花をいただく等、地域との密接なつながりのもと、生活をしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部の方が訪問した際には利用者のプライバシーに配慮しながら、認知症高齢者についての理解を得ている。	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価結果を報告し、出席者と意見交換して助言をいただいている。また、話し合いを基にサービスの向上に努めている。『目標達成計画』について話し合いは行っていない。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、開催前には再度連絡をして参加を呼びかけている。運営推進委員は、町内会長、民生委員、地域包括支援センターの所長、家族、利用者、管理者、職員で構成されており、事業の実施状況や自己評価及び外部評価結果を報告し、出席者からの活発な意見や助言をいただき、サービスの向上に努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には定期的に地域包括支援センター職員が参加している。市町村へは『自己評価及び外部評価結果』、『運営推進会議議事録』等を提出し、報告を行っている。	市町村へは自己評価及び外部評価結果、入居状況、運営推進会議の結果等を報告している。また、ホームのサービス提供等についても相談し、助言や指導を仰ぎながら協力関係を築いている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体的拘束等の排除のための取り組みに関する事業所の理念が記載された文書があり、ホーム内に開示し、身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。また、身体的拘束等を排除するための取り組みに関するマニュアルがある。</p>	<p>身体拘束等の排除のための取り組みに関するマニュアルを整備し、外部研修への参加や内部での勉強会により、身体拘束は行わないという姿勢で、日々のケアを提供している。日中、玄関は施錠しておらず、センサーの設置によって利用者の外出傾向を察知し、自由に出入りができるように取り組んでいる。また、無断外出に備え、町会長や民生委員の他、近隣住民や近くの温泉・スーパーの従業員等に協力を呼びかけている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について、管理者からの指導や学習する場を設けており、虐待は決して行わないという意識で日々のケアを提供している。また、虐待防止についての対応マニュアルがある。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>成年後見制度について勉強会で学び、理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、事業所の理念、ケアの方針や取り組み等について書面と口頭で説明している。また、項目毎に不明な点がないか家族に確認している。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話、投書にて苦情や要望に関する受付を行っているが、今年度はまだ苦情が一度もない。利用者や家族には行政機関にも苦情窓口がある旨、伝えている。</p>	<p>月1回、家族にホーム便りを送付し、利用者の健康状態や受診状況、ホームでの暮らしぶりを写真と共に報告している他、必要に応じて随時電話で連絡している。内部及び外部の苦情受付窓口を明示しており、玄関には投書箱を設置している他、面会時等に苦情や相談を気軽に話せるよう、日頃から話しやすい雰囲気作りに努めている。また、出された苦情や意見等は職員会議で検討のうえ対応し、結果を家族等に報告している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に月1回のミーティングで意見を聞き、反映させている。また、業務の中で気づきがあれば、連絡ノートに記入し、全体で共有している。	職員会議やユニット合同会議、連絡ノートの活用により、職員の気づきや意見、要望を反映できるような体制を整えている。職員の異動は基本的にはなく、利用者に不安を与えないよう、日頃から行事等で馴染みの関係を築いている。また、職員の向上心や働く意欲につながるよう、希望のシフト調整や資格取得に向けた支援を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績をみて、その人に合わせた職場環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間研修計画を作成しているが、業務上の都合により、計画通りに実施できていない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者とは相互訪問や懇親会、勉強会等を行い、互いにサービスの質の向上に努めている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者と家族との面談にあたり、不安事や要望を、謙虚な姿勢で受け止め、信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームの環境面やサービス面、または利用者にとって安心の出来る生活空間づくりを目指していく旨、家族に伝え、安心感をもっていただくように努めている。また、家族が抱えている問題や不安事を受け止め、迅速に解決出来るように支援している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に予め利用者や家族の意向を聞き、今何を必要としているのかを見極め、より良いサービスに、または長年馴染んだ生活環境に繋げていけるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	回想法により、利用者から学ぶことや楽しむことを心がけ、共感的・受容的な姿勢で取り組んでいる。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて家族の意向を聞いたり、利用者の希望や要望を伝え、家族と利用者との相互関係を築いていけるように支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の代行や手紙の代筆を行ったり、家族以外の方の面会も自由であり、馴染みの方との関係が途切れないように支援している。	利用者や家族との日頃のコミュニケーションの中から、馴染みの人や場所、生活習慣を把握するように努めている。また、電話をかけた後、年賀状や手紙を出せるように支援している他、希望に応じて自宅周辺や海等へのドライブも行っている。家族や知人等の面会時は、ゆったりと気兼ねなく過ごせるように心がけ、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関係を持てるように職員が間に入り、話題を提供し、孤立しないように支援している。また、居室で過ごすことが多い場合は、居室で会話する等して孤立しないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の事や相談事を受け付ける旨、説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な利用者に対しては生活歴や価値観、家族からの情報等、あらゆる視点から利用者本位の生活が出来るように支援している。	日頃の会話や表情、行動から本人の意向や思いを把握しており、家族からの情報や生活歴、個人記録等を参考にしながら、できるだけ本人の希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在は、状況に応じて利用者の家族等から情報を収集し、馴染みのある生活環境へと繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が利用者の1日の生活リズムを把握している。また、日常生活において変化があった場合には、ミーティングでの話し合いや連絡ノートに気づきを記入し、話し合いのもと、改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向に考慮しながら、定期的に職員と話し合い、介護計画を作成している。	介護計画には家族の意見を反映している他、担当の職員が利用者の言葉や日々の様子を記録して意向の把握に努め、申し送りや会議等で話し合いのうえ、個別具体的な計画を作成している。基本的には6ヶ月毎に見直しを行い、その際は必ずモニタリングを実施し、職員や利用者、家族、関係者からも情報収集して、再アセスメントを行っている。また、急な課題が持ち上がった時等には随時速やかに見直しを行い、現状に沿った介護計画となるように取り組んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングで、利用者についての気づきや課題となっていること等を職員間で共有し、改善に繋げている。また、この結果を介護計画の見直しに活かしている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域ケア会議を通して、民生委員や地域包括支援センター、地域の事業所等と連携・共同を図っている。			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ユニット9名の内、2名は家族の希望により個人病院の往診、または、家族の送迎で病院へ受診している。必要に応じ、ホーム側の送迎により他科受診をしている。		利用者個々の受診台帳があり、2週間に1回の往診や週1回の訪問看護について記録し、健康管理を行っている。協力医療機関を利用している方が多いが、希望に応じた医療機関を受診できるような体制を構築している。また、主治医や家族と受診結果の情報を共有しており、安心して適切な医療を受けられるように配慮している。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(非常勤)が毎週月曜日に健康管理チェックを行っている。また、看護師に利用者の状況を報告し、助言を得ている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合には病院関係者と情報交換し、入院中は利用者や家族の要望に迅速に対応し、早期に退院出来るように支援している。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>非常勤の看護師が週に一回、往診が2週間に一回あり、定期的に健康管理を行っている。急変時は協力医療機関より指示を受け、経過を家族に報告している。</p>	<p>ターミナルケアにおける指針を示しており、入居時の契約の際にも十分に説明している。重度化への対応については、非常勤の看護師や往診等の医療情報を提供する体制となっている。終末期の対応については家族の意向を再確認し、ホームや医療機関の対応を説明して意思統一を図り、支援していく体制となっている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。また、定期的な訓練はミーティング時や勉強会時に行う予定である。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間を想定した避難訓練等を行っている。災害対策について、運営推進会議の出席者よりいただいた助言や意見を参考に、体制を整えている。</p>	<p>消防署の協力のもと、年2回、夜間も想定して避難訓練を実施している。訓練では、自動通報装置も活用し、登録していただいている方へ実際に連絡し、協力を得ている。また、業者による設備点検も定期的に行っており、避難場所や備蓄品等の確保もしている。</p>		



自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して、人生の先輩であり、お客様だということを忘れて対応してしまうことがある。	職員は、利用者一人ひとりの人格や誇りを尊重しており、言葉かけや対応について毎月の会議で確認し、改善するように取り組んでいる。排泄時には特に細心の注意を払って対応している他、書類等の管理も徹底している。また、居室の名札の標記やホーム便り等への掲載内容については、本人や家族に了解を得たうえで、十分にプライバシーに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、思いや希望を聞き、実現に結びつけることが出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を最優先せず、利用者の希望や意見を尊重出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回、訪問理容を利用している。また、利用者の個性や希望等を尊重し、利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに関しては定期的に利用者を確認し、考慮しながら調理を行っている。また、利用者と職員と一緒に食事の摂り、準備、片付けも一緒に行っている。	利用者の好みについて定期的に嗜好調査を行い、職員が献立の作成をしている。食べられない食材には、代替食や調理方法を変える等して対応している。また、利用者と職員は、会話を楽しみながら同じ食事を摂っており、利用者の状況に応じて、野菜の皮むきや後片付け等も一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を随時記録し、職員が把握出来るようにしている。また、利用者の希望により朝、昼はパン食にする等、利用者の習慣に応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら出来ない利用者に対しては、介助で義歯洗浄、うがいを促し、口腔ケアに努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在リハビリパンツを使用している方に対しては定時誘導し、トイレで排泄していたき、失禁の軽減に繋げている。	排便・排尿チェック表により個別に管理しており、個々の排泄パターンを把握している。定時誘導の他、利用者の動作・表情等からも察知して事前にさりげなく誘導しており、一人ひとりのプライバシーに十分に配慮したうえで、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、乳製品で便秘の改善に努めている利用者もいる。便秘がちな方には腹部マッサージや、日課としている健康体操にて改善に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	馴染みの利用者同士と一緒に入浴出来るよう支援している。ホーム側の都合で曜日や時間を決めてしまっているが、希望があれば隣の温泉を利用できる旨、伝えられている。	月・水・金曜日の入浴日の他、希望に応じ、シャワー浴や隣の温泉施設を利用することができる。入浴を拒否する方については、時間をずらしたり、声かけの内容を工夫する等して入浴できるように努めている。また、ゆっくりと入浴するのが好きな方については、体調を考慮しながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの生活リズムに合わせて、体調管理に努めながら、安心して休息出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を個人ファイルに保管し、把握できるようにしている。また、医師の指示により薬の内容が変わった場合は、連絡ノートや口頭で報告し、職員全体に浸透させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歩行が自立している方は、食後に下膳していただくように声かけを行っている。また、食器洗いや食器拭き、たたみもの等、出来る範囲で役割を持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期に行う外出レクリエーションの他、利用者の希望があれば迅速に計画し、隣のスーパーで買い物をしたり、車でドライブや希望の場所に行く等、戸外に出かけられるよう支援している。	日頃から利用者の要望の把握に努め、散歩や隣のスーパーで買い物等をしており、それぞれの身体状況に応じて移動方法や移動距離にも配慮した支援を行っている。また、遠方への外出時は家族にも協力していただき、できる限り利用者の希望が叶えられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人の希望や好みの物を自由に購入出来るように支援している。購入代金はホーム側で立替え、家族に請求している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族に利用者の日常生活状況や行事等について、お便りにて報告している。また、利用者が家族に電話連絡しやすい雰囲気作りを行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には装飾や趣味活動で行った作品、行事の写真を掲示する等、生活感や季節感を取り入れている。	ホールには、テーブルセットやソファ、テレビ等を設置し、花や鉢植えの他、職員と利用者が共同制作した季節折々の作品や行事等の写真を飾っており、和やかで家庭的な雰囲気となっている。また、温・湿度計を設置して、適切で居心地の良い環境となるように努めている。他、トイレや玄関等の要所要所に手すりを設置し、安全にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内2か所にソファを設置し、利用者同士が会話する等して、自由に過ごしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホーム側で提供しているが、それ以外の物は、入居時に使い馴染んだ物等を持参していただけるように、利用者や家族に呼びかけている。また、季節毎に趣味活動で作成した作品を居室に飾っている。	居室には、本人の使い慣れた家具や愛用品を持ち込むように家族に働きかけており、利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて、気持ち良く過ごせるように取り組んでいる。また、利用者と職員が一緒に考え、工夫して家具等の配置をしており、季節を感じられるような作品も飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当ホームは2階建てのため、階段昇降機を設置し、補えない部分については、福祉用具等を用いて安全対策に努めている。			